

【平成17年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	フリーター等向けの実践実習教育プログラムとアセスメント手法の研究開発		
学校法人名	学校法人 岩谷学園		
学校名	岩谷学園テクノビジネス専門学校		
代表者	理事長 岩谷 伸一	担当者・連絡先	飛田 孝光 TEL 045-321-4414
<p><事業の概要></p> <p>フリーター等を専門知識に加えて実践的な対人能力・ビジネス能力等を有し、創造的に仕事ができる人材に養成するため、実践的な実習教育プログラムとその能力のアセスメント手法を研究開発した。</p> <p>さらに、効果的にこれらの能力を養成するため、またインターンシップ時のフォローアップのため、自らeラーニングで学びCBTを用いてアセスメントを行えるように、ビジネス能力検定問題を素材とした試験のCBT化を行う研究開発を行った。</p> <p><成果></p> <p>研究開発テーマを次の2つに分けて2つの分科会で研究を行った。</p> <p>実践実習教育プログラム分科会（第1分科会）</p> <p>本事業は、模擬的な店舗経営等とインターンシップとを組み合わせることで、様々な観点からこれをサポート出来るようにし、実践的な専門能力と対人能力・ビジネス能力等の系統的な指導を行う教育プログラムとアセスメント手法を研究開発した。</p> <p>対象としたのは、企業の求める能力と学生が求めている能力に大きな乖離が生じている学科である。学生は高い専門能力を求めて日々研鑽しているが、企業は幅広いビジネス能力の上に立つ専門能力を求めている。この求める能力の差を、どのように学生自身に気付かせ、そのギャップを埋めるかがこのプロジェクトのテーマであり、これによって若者の早期就職につながるプログラムを実施することを目標としている。</p> <p>このプログラムの中心となるアセスメントの方法として、何が出来るのかということの評価するパフォーマンスアセスメントを採用し、企業が求めるスキルの項目として、具体的に何が出来る必要があるのかを洗い出した。このスキルセットを確定するためには、多数の企業にご協力をいただき、ヒアリングやアンケートを実施した。</p> <p>こうして作成されたスキルセットに基づき、学生の自己評価・学生同士の相互評価および担任評価を実施し、その分析を通じて、学生自身が自己の特徴を把握し、どのようなスキルの習得が必要なのかを理解させるようにした。これは学生本人だけでなく、担任にとっても、改めて学生の特徴や課題を明確にする良い機会になったと思う。</p> <p>その上で、今回作成した教育ツールをもとにスキルアップのための実証講座（模擬的な店舗を用いた実践実習授業）を実施し、その後スキルの再評価を行った。短期間のプログラムのため、重点に絞った実践実習となったが、それぞれスキルアップの効果が現れている。何よりも、自分の問題点に気づき、実証講座を通じて具体的に何をすべきか考える機会をもてたことが、大きな進歩といえるだろう。</p>			

今回のプロジェクトを通じて、実際に企業が求める人材像が明らかになり、必要なスキルの優先順位もある程度明らかになっている。

また、短期の実証講座と相互評価を通じて、短期間でも学生の態度変容が期待できることも明らかになってきた。特にこのコースで課題とされてきた、学生の求める能力と企業の求める能力のギャップは、フリーター等の教育指導に当たっての問題点と符合するところが大きい。

この研究プロジェクトのメインテーマである、フリーター等向けの実践実習教育とアセスメント手法の研究開発は、これによって一応の成果が上げられたものと思う。

この成果を活用した、短期講座の開設を計画して、よりよい専門教育を実現していきたいと思う。

eラーニング・CBT分科会（第2分科会）

ビジネス的な能力は実践面だけでなく、知識面でも大変重要である。このビジネス能力は、単に知っていることでなく、知識を元に理解し活用する能力であるが、すでに文部科学省認定のビジネス能力検定試験として体系化され実践されている。この体系に基づいて、必要なビジネス等の専門知識をeラーニングで学習する仕組みも、すでに稼働しており、当校でも実際に活用している。

しかし、こうしたビジネス能力の教育現場では、学生の能力差が大きな課題である。とりわけフリーターや早期離職者の再就職支援の場合には、個々の受講生の能力と経験の差が大きく、一斉授業では指導しきれない問題が生じている。そこで、当校でもeラーニングを活用しているが、意欲を持たせ効果的に学習を進めるためには、個別に学習の課題とその成果を明確にする効果的なアセスメントの方法が求められている。

そのため、このプロジェクトでは基礎能力や学習効果を個別にかつ迅速に確認するためのアセスメントの手段として、CBT（コンピュータ・ベース・テスト）を活用することにし、ビジネス能力検定の経験豊富な先生方の協力を得て、ビジネス能力検定のCBT化という形でビジネス能力のCBTによるアセスメント方法を研究開発した。

CBTは、個別にかつ随時に受けることができるし、その結果も即時に知ることができるのが特徴である。受け取る結果を単なる合否でなく、スキル評価となるようにすることで、受検者のビジネス能力のアセスメントとして活用することが出来る。今回はこの観点に立って、CBT化が難しいと思われた新聞や統計の問題もそのままCBT化して結果を確認した。種々の問題はありますが、CBT化のめどは立ったといえよう。

また、この研究によってこのシステムによるCBT化のマニュアルが出来たので、多様な科目にも応用できるようになった。校内の試験もCBT化し、個々の学生のスキル評価に活用することが可能である。今後多くの分野で活用され、専門学校教育の高度化に寄与することを期待している。